



根室北部の経済の中心 人が集まる交流拠点 中標津町



中標津町基礎データ

総人口	22,297人 (R6年9月末現在)	製造品出荷額	17,612百万円 (R3経済センサス)
高齢人口（高齢化率）	6,317人 28.3% (R6年9月末現在)	卸・小売年間販売額	87,434百万円 (R3経済センサス)
世帯数	11,538世帯 (R6年9月末現在)	一般会計規模	16,386,000千円 (R7当初予算)
人口密度	32.6人／km ²	町の木	白樺
面積	684.87km ²	町の花	エゾリンドウ
農業産出額	24,520百万円 (R4市町村別農業産出額)		

中標津町の紹介

中標津町は、北海道の東部、世界自然遺産の基部に位置する人口約22,000人の町です。

知床の山並み、広大な酪農風景、少し足を延ばせば世界自然遺産の知床や、阿寒摩周国立公園等の豊かな自然環境に恵まれ、産業では、全国有数の酪農の町でありながら、根室地域の経済の中心として中小の店舗はもちろん近年の大型スーパー等の出店により商業施設も充実しており、田舎すぎても都会すぎてもいない“丁度良い”町です。

また、札幌・東京都と道東をつなぐ中標津空港や、地域センター病院である町立中標津病院、国・道の出先機関等の都市機能が集積しているため、仕事や買い物等で訪れる近隣市町村の住民をはじめ、様々な人たちが集まる地域の交流拠点になっており、その商圏人口は定住人口を大きく上回ります。

小売の年間商品販売額は道内町村の中では1位であり、現在も大規模スーパー等の出店が続く商業のポテンシャルが高い町であるとともに、町の周囲には有名観光地が数多くあり、広域観光の拠点としても高いポテンシャル

ルを秘めている町でもあります。



上空から見た開陽台と格子状防風林

地球が丸くみえる開陽台

中標津町のランドマークである開陽台は、日本一の酪農地帯と言われる根釧原野より知床連山武佐岳の裾野につながる標高270mの小高い丘陵です。

全国でも珍しい地平線から日の出を見ることができる場所で、冬期間は地平線から昇る太陽を撮影するため多くのカメラマンが訪れます。また展望館からは「地球が丸くみえる、視界330度の眺望」として豊かに広がる牧場、北海道遺産に登録された格子状防風林、そして遥か北方領土〈国後島〉までも一望できま

す。



開陽台

養老牛温泉と市街地温泉

中標津市街地から約27kmの山間に、まるで眠りにについているかのような奥深い自然に抱かれた養老牛温泉があります。無色透明の豊富な湯量を誇り、俗化されない温泉として多くのファンの心をつかんでいます。

また、中標津市街地は利便性に優れ、飲・食・宿すべてがコンパクトにまとまっており、市街地にもたくさんの温泉施設があります。用途に応じた宿泊施設が多数あり、観光・ビジネスの拠点として最適です。



養老牛温泉

提灯6,000個、なかしべつ夏祭り

毎年8月の第二土曜日・日曜日になかしべつ夏祭りが開催されます。

メイン会場には、盆踊りのやぐらを中心に

国内最大級とも言われる約6,000個の提灯が飾り付けられ、中標津の夏の夜を幻想的に彩ります。

また、祭りの初日には大平原花火大会を開催。スターメイン等の約1,400発の花火が打ち上げられ、祭り会場から楽しむ事ができます。



なかしべつ夏祭り

テレワーク誘致事業

中標津町外の企業や事業所等に所属しながら、町内でテレワークを実施する方に、航空運賃やレンタカー代、テレワークの実施に係る施設利用料、町内において実施したプログラムの体験料を補助する制度を設けています。

町内企業視察やアクティビティ体験も可能な事業となっていますので、積極にご活用ください。

詳しくは中標津町HPをご参照ください。

町の取組について

①～外国『人財』の誘致と多文化共生～

人口減少・少子高齢化の進展に伴い、産業の担い手不足は特に地方自治体で深刻化しています。

中標津町では、令和3年に開校した日本語学校を契機に、外国人材を貴重な「人財」と

して地域の活力とするため、留学生及び就業者の確保に向けた海外往訪プロモーションなど外国人材の誘致や、日本語学校留学生には学費相当額の支援金を支給することで、安心して勉強に励むことが出来るよう、就学環境整備に取り組んでいます。

また、外国人と地域住民の相互理解による多文化共生の推進に向け、料理教室やパーティーの開催など交流イベントの実施や外国文化の勉強会、国際交流ボランティア制度の創設などを行っています。

2020年には100人程度だった外国人人口は現在300人に迫り、今や本町の人口の1%を超える勢いとなっています。

②～中標津町の拠点性の維持・強化～

中標津町の強みは近隣市町村の住民等が集まる拠点性であり、人口減少が進む中でこの拠点性を維持・強化する事が重要と考えています。

中標津町は現在、緑ヶ丘森林公園キャンプ場や、町のランドマークである開陽台の再整備、展示機能を兼ねた郷土資料収蔵庫の建設など、人を呼び込むための取組を積極的に進めています。

この中で緑ヶ丘森林公園キャンプ場は令和4年度より再整備工事に着手しており、50年近く経過するキャンプ場を、現在のニーズに合わせてオートサイトの新設やトイレを改築する等の大幅リニューアルを進めています。



森林公園リニューアル後イメージ

北海道立ゆめの森公園に隣接する緑ヶ丘森林公園キャンプ場は広い敷地と豊かな自然をあわせ持ち、市街地からも空港からも近い利便性の高いキャンプ場であり、リニューアルにより町への観光客増加が期待されています。

③～DX推進による地域の魅力向上～

人口減少が進む中でDX推進による効率化は重要です。中標津町では、「書かない窓口」導入による住民サービスの向上等に取り組んでいる他、令和6年4月に根室管内初となるIT専門学校が開校し、DX推進の機運が高まっています。

「書かない窓口」は、住民が窓口で手続きする際にマイナンバーカード等を提示する事であらかじめ氏名や住所等が記載された申請書・届出書が出力できるようにするもので、複数窓口の手続きが必要な場合は、1つの窓口で手続きするだけで、その申請情報を庁舎内で共有し、住民が容易に申請書・届出書等を作成できるようになります。

これにより住民の窓口手続きの負担軽減につながり、デジタル技術を活用した住民サービス・地域の魅力向上を進めています。

○企業版ふるさと納税について

中標津町では前述した町の取組①～③をはじめ、様々な地方創生の取組で企業版ふるさと納税を募集しています。

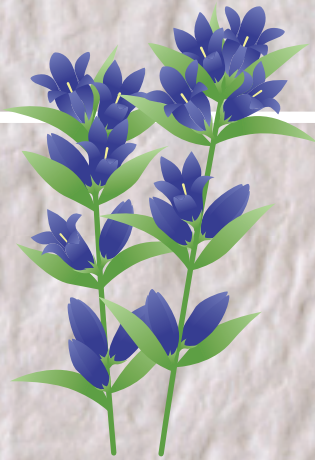
人口減少が進む中で中標津町が人が集まる強みを維持・強化していくために、企業の皆様と共に取り組んでいきたいと考えています。

詳しくは担当までご連絡下さい。(担当：総務部政策推進課企画調整係)

中標津町の四季



【春】白樺並木



【夏】牧場風景



【秋】ミルクロード



【冬】丸山公園雪化粧